

# 令和6年度 県立神戸工業高等学校 学校評価シート(1月) 集計表

No	教育目標	分掌	実践目標	取組内容と評価指標	取組結果	人数					平均	増減	9月の平均	増減	昨年1月の平均
						A	B	C	D	計					
1	基礎学力を向上させ、個性を伸張する	教務	教育課程	カリキュラム委員会で各教科からの意見を積極的に収集し、より本校生徒に合う教育課程の編成を行う。	各教科からの意見をもとに一部変更し、改善することができた。	31	17	2	1	51	3.53	- 0.04	3.57	- 0.13	3.66
2		生徒指導	安心して学べる環境づくり	生徒指導部による校内巡視に加えて、先生方のご理解ご協力の下、各学年で巡回指導や有事の際は特別巡視週間を設けて、問題行動抑止に努める。	年間を通じて、実施ができた。	37	11	3	0	51	3.67	- 0.02	3.69	+ 0.20	3.47
3		進路指導	キャリア教育の推進	各学年と連携し、キャリアノートを実際に使用したキャリア教育を年間2回は実施する。	学年によって内容や回数に多少の差は生じたが、キャリアノートを活用したキャリア教育を各学年で行うことができた。	23	18	7	3	51	3.20	+ 0.06	3.14	+ 0.12	3.08
4		保健	規則正しい生活習慣	昇降口で、生徒への挨拶・声かけを行う。	年間を通して声かけを行うことができた。	41	9	0	1	51	3.76	- 0.08	3.84	+ 0.13	3.63
5		図書情報	ICTの授業での活用	生徒用タブレットや、教育用クラウドのIDの管理を円滑に行い、授業での活用のサポートを行う。	貸出簿に記入してもらうことにより、タブレットの貸出しを円滑に行うことができている。	32	18	1	0	51	3.61	+ 0.12	3.49	- 0.02	3.63
6		学科	資格・検定の補習の実施	建築:各種検定に応じて全体・個別補習を実施し資格取得をサポートする。 機械:技能検定・特別教育等のために個別補習や講習会を行っている。 電気:電気工事士取得に向け、始業前、放課後の時間を利用して行う。 情報技術:放課後を活用し、国家試験や検定試験の受験を目指して補習を希望する生徒に実施する。	建築:資格・検定にチャレンジする生徒が少なくなっているが、資格・検定ごとに授業前や放課後に補習を実施するなどして個に対応したサポートを行った。 機械:資格取得のため始業前、放課後に希望者には補習を行えるようにした。初級CAD検定全員合格、基礎製図検定1名合格する事が出来た。 電気:始業前、放課後、長期休業中を利用して第二種電気工事士取得に向けて補習を実施した。今年度は、下期において1名が学科合格し、実技の結果待ちである。 情報技術:放課後の時間を利用して、検定試験や国家試験の受験に向けて補習を実施した。	37	14	0	0	51	3.73	+ 0.06	3.67	- 0.05	3.78
7		学科	わかりやすい授業の展開	建築:生徒の理解度を把握し、適宜補助教材・資料、パワーポイント資料を作成、資料の配布やプロジェクターでの表示などをおこない、理解度を深める。 機械:生徒の学力に合わせ副教材・プリントを利用して、基礎的な知識の向上をはかる。 電気:教科書以外に自作プリント等を活用し、基礎基本から応用まで個々に応じた指導を行う。 情報技術:理解しやすくするために、ICTを適切に活用した授業を実施する。 国語:ICTの活用により、図や写真などを提示し、より具体的に内容を考えさせる。 地歴公民:生徒の資質・能力を育むために必要な問いの研究と適切な資料の活用を心がける。 数学:生徒の実態に合わせ、小・中学校の復習から徐々にステップアップできるように授業を展開する。 理科:基礎学力を育むとともに、電子黒板などICT機器を活用し、思考力・判断力を身に付けさせる。 保健体育:生徒の実態を把握し、段階的な授業を展開する。また、ICT機器等を活用し、学習に対する意欲を高められるようにする。 英語:生徒の理解度に応じ適宜プリントやICT機器を活用して生徒の意欲を引き出す授業を展開し、基礎学力の向上を図る。 家庭:映像や実習と座学を組み合わせ、生徒の実態に即した教材をプリントにまとめて取り組みやすくする。	建築:各授業の主担当が生徒の状況を把握しながら理解してもらえらるために補助教材・資料、パワーポイント資料などを新たに作成したり、ブラッシュアップしていた。 機械:副教材・プリントを使用し生徒に分かりやすく基礎的な知識の向上を図る事が出来た。 電気:ICT機器を利用してわかりやすい授業を展開できた。自作プリントを作成して個々に応じた学習指導を行い、学習意欲を高めることができた。 情報技術:ICT機器を活用して図や画像、動画を用いることにより、学習内容がイメージしやすいように工夫して授業を実施した。 国語:ICTの活用により、図や写真などを提示し、より具体的に内容を考えさせ、基礎学力向上に努めた。 地歴公民:生徒の思考を促せるよう工夫しながら、チャレンジングに取り組むことができた。 数学:生徒が躓いている小・中学校の学習を振り返りながら授業を進め、わかりやすい授業の展開に努めた。 理科:ICT機器を活用して生徒の意欲向上や視覚的理解に努めた。また、複数人で担当することによって学習意欲の低い生徒に対しても丁寧な対応ができた。 保健体育:生徒の実態に応じ段階的な指導を取り入れた授業を展開することができた。保健、体育両方の授業において場面に応じてICTを活用し意欲の向上や、わかりやすい授業展開に努めた。 英語:少人数の特性を生かし、生徒の進度に応じたきめ細やかな学習指導を行った。 家庭:映像や実習と座学を組み合わせたり、教材をプリントにまとめて取り組みやすくする等生徒の状況を把握しながらの授業展開に努めた。	31	19	1	0	51	3.59	+ 0.02	3.57	+ 0.02	3.57

No	教育課程	分掌	実践目標	取組内容と評価指標	取組結果	人数					平均	増減	9月の平均	増減	昨年1月の平均
						A	B	C	D	計					
8	個性を伸ばす	学年	基礎学力向上のため、生徒の状況把握	1年:SHR等を活用して、生徒の意欲や実態に応じた基礎学力の向上を図る。 2年:生徒の学力を把握し、学習意欲の向上を図る。 3年:家庭との連携を密にするとともに、学年会議で情報を共有し、協力して対応する 4年:学年団や教科担当との密な情報共有により、生徒個々に必要な取り組みを実施する。	1年:SHRやLHRを活用し、生徒の意欲や実態に応じたドリル学習を行い基礎学力の向上に努めた。 2年:教科担当と連携し、生徒の実態に応じた課題に取り組みさせることで学習意欲の向上に努めた。 3年:欠席、早退、遅刻などの情報を積極的に家庭連絡ができ、家庭と連携し生徒を見守ることができた。 4年:	26	22	3	0	51	3.45	- 0.04	3.49	+ 0.14	3.31
9		総務	学校行事の実施	各行事が円滑に実施できるよう計画・準備を進める。	各分掌と協力して、学校行事を円滑に実施できた。	36	13	2	0	51	3.67	+ 0.08	3.59	- 0.02	3.69
10	他者と協働する能力を育み、社会性の涵養をはかる	生徒指導	スマホ・SNSの適切な利用とコミュニケーション力の向上	インターネットやスマートフォンの適切な利用については専門家と連携しながら情報をアップデートする必要がある。(本年度は10月20日に講演会を実施予定)	学校医藤澤直子先生よりスマートフォンの使用過多が目に見える影響についての講演を頂き、スマートフォン使用のルールに役立てた。	33	15	3	0	51	3.59	+ 0.18	3.41	- 0.13	3.72
11		生徒指導	規範意識の向上	生徒会の取組みとして、目標の設定や生徒への呼びかけ、校内掲示等を行う。	生徒総会(R6,4)、臨時生徒総会(R6,7)を通して、スマートフォン使用のスローガンを採択し、校内にも掲示した。	33	15	3	0	51	3.59	+ 0.14	3.45	+ 0.16	3.43
12		進路指導	職業観の育成	進路指導部として企業や産業を知るための会社見学や企業セミナー(合同ガイダンス等)を企画・実施する。	会社見学会は12月に実施できた。企業セミナー(合同ガイダンス)は3月3日実施で計画している。	30	14	5	2	51	3.41	- 0.12	3.53	- 0.15	3.56
13		学科	実習で培う協働	建築:建築技術者として必要なコミュニケーションスキルが身につくように高学年でグループ実習を実施する。 機械:工具の整理・実習室の清掃・安全確認をグループで行っている。 電気:班を形成し、班の一員としての責務を果たせるよう取り組む。 情報技術:グループでの分担や協働による作品の制作に取り組む。	建築:各学年の生徒数に応じてグループ実習を様々な内容で実施した。 機械:グループで行うことで、工具の整理・実習室の清掃・安全確認を個人で行うよりさらに、性格、確実に行う事が出来た。 電気:実習内容によりグループワークを実施した。生徒自ら役割分担を行い班員が協力して実習を行うことができた。 情報技術:作品の制作や課題の完成に向けて協力して取り組んだ。	39	11	1	0	51	3.75	+ 0.08	3.67	+ 0.03	3.72
14		学年	学校行事におけるクラスの協働	1年:各行事を通じて、一人一人に役割を持たせ、他社と協働する態度を育成する。 2年:担任と生徒、生徒間の相互理解・信頼関係の醸成。 3年:学校行事を通して、クラスや学年内で協力する精神を養う。 4年:各行事において、個々の生徒に役割を持たせ、協力して取り組ませる。	1年:文化祭や学年レクリエーションなどを通して、他者と協働する態度を育成することができた。 2年:学年行事や学校行事等を通じて、学年間の人間関係を深めることができた。 3年: 4年:協力して取り組ませることができなかった行事もあり残念であった。	27	20	3	1	51	3.43	- 0.16	3.59	- 0.02	3.45

No	教育目標	分掌	実践目標	取組内容と評価指標	取組結果	人数					平均	増減	9月の平均	増減	昨年1月の平均
						A	B	C	D	計					
15	人権を尊重し、命を大切に する心を育てる	総務	防災教育・避難訓練	火災・津波・高潮等を想定した避難訓練を年2回実施し、生徒・職員 の防災意識・危機管理意識の向上を図る。	7月に火災想定の高所避難訓練、12月には地震津波高潮想定の高所 避難訓練を実施した。想定条件に変化をつけたことや、語り部さん による震災体験伝承講話で、生徒・職員の防災意識を向上させた。	38	10	2	1	51	3.67	+ 0.06	3.61	- 0.00	3.67
16		生徒指導	人権教育(いじめ防止や心の教育)	いじめ防止や心の教育等、人権意識を高める内容の講演会や、 人権LHR(年1回以上)を行う。	いじめアンケートによるいじめの把握やいじめ防止のための啓発 を行った他、人権教育訪問指導にあわせて人権LHRを実施した。また、 スマートフォン利用のルール作り役立てるための学校医による講演会 を実施した。	37	12	2	0	51	3.69	+ 0.00	3.69	- 0.03	3.72
17		保健	健康教育	健康教育の充実を図るために、保健だよりを月に1回(年11回)発行 する。	予定通り保健だよりを発行することができた。	38	12	1	0	51	3.73	+ 0.06	3.67	+ 0.28	3.45
18		保健	心の健康	学年・科・キャンパスカウンセラーとの連携を密に行い、生徒や保 護者の個々の状況に応じた適切な対応に努める。	必要に応じて学年、科、キャンパスカウンセラーと連携して概ね適切 な対応ができた。	35	13	3	0	51	3.63	- 0.04	3.67	+ 0.06	3.57
19		図書情報	情報モラルの啓発及び定着	各部や学年と連携し、生徒の情報モラルに対する意識を高めさせ る。	生徒のIDやパスワードの管理、教育用クラウドサービスの利用につい て学年と協力して行うことができた。	27	19	5	0	51	3.43	+ 0.04	3.39	- 0.14	3.57
20		学科	事故防止に向けた安全教育の実施	建築:各実習授業時に使用材料・工具等の取扱いに触れながら安全教 育を実施する。 機械:各学年実習の授業で安全心得などの冊子を使い事故の事例や安全 教育を行っている。 電気:安全な技能活動の習得を目指し、点呼時に本時の危険箇所の注 意喚起を促す。 情報技術:作業ごとに工具などの正しい使い方や注意すべき事柄を説 明し、安全に留意して作業することを徹底する。	建築:各学年の実習授業で全体、個別ともに随時適切なタイミング で実施した。 機械:事故の事例や安全教育を行い、ケガや事故防止につとめ実習安全 に努めた。 電気:実習においては、毎時間、授業の始めに授業内容と危険箇所の 注意喚起を促し事故防止と実習安全に努めた。 情報技術:作業ごとに正しい工具の使い方や作業のしかたを説明し て、安全に留意しながら作業を行った。	36	14	1	0	51	3.69	+ 0.06	3.63	+ 0.07	3.62
21		学年	修学旅行・遠足・体育祭等 学年として協力する態度 の育成	1年:各行事を通して、自他の違いを認め、相手を思いやり行動で きる態度を育成する。 2年:行事を通して、高校生としての自覚と連帯感・一体感をもた せる。 3年:修学旅行や各行事を通して、人権の尊重と命の大切さにつ いての意識を高める。 4年:各行事を通して、人権の尊重と命の大切さを学ぶ。	1年:文化祭や学年レクリエーションなどを通して、相手を思いやり ながら行動できる態度を育成することができた。 2年:文化祭では、生徒同士で準備や片付け、当日の運営まで協力し 合いながら取り組む姿勢が見られた。 3年:体育委員や修学旅行委員会を中心に生徒時自身が積極的に行 事に取り組む姿勢がみえた。 4年:人権HRなどを通して、人権の尊重と命の大切さを学ぶことが できた。	32	17	2	0	51	3.59	+ 0.04	3.55	- 0.00	3.59
22	学校運営	教務	研究授業・公開授業	公開授業週間および研究授業を実施する。研究授業後には意見 交換の場を設定し、授業力を高める。	ともに実施することができた。各教科に依頼し、授業後の研究協 議の実施もできた。	36	10	5	0	51	3.61	- 0.04	3.65	+ 0.06	3.55
23		教務	教育課題への取り組み	現在の教育課題にそった校内研修会を実施する。	研修会を実施することができなかった。毎年の研修会実施が必要か 検討していきたい。	23	7	14	7	51	2.90	- 0.43	3.33	- 0.74	3.64
24		生徒指導	人権研修会の実施	外部講師を招いて人権に関する職員研修会を年1回以上行い、 様々な人権課題に対する知見を広め、意識啓発を図る。	「いじめ・ハラスメント」をテーマに、キャンパスカウンセラー を講師とした職員研修を実施した。	35	13	3	0	51	3.63	+ 0.14	3.49	+ 0.03	3.60

No	教育目標	分掌	実践目標	取組内容と評価指標	取組結果	人数					平均	増減	9月の平均	増減	昨年1月の平均	
						A	B	C	D	計						
25	学校運営	保健	AED・心肺蘇生法	教職員応急手当講習会(年1回)を実施する。	兵庫消防所からダミーをお借りし、講習会を実施することができた。	39	11	1	0	51	3.75	- 0.10	3.84	- 0.08	3.83	
26		保健	感染症対策	教室や実習室の換気の徹底を図る。	特に寒い時期が中々換気を徹底することが出来なかった。	23	15	12	1	51	3.18	- 0.29	3.47	+ 0.28	2.90	
27		総務	学校案内・広報活動	オープンハイスクールや中学校教員向け説明会、学校見学(随時)を通して本校の魅力を知ってもらう。従来の学校案内パンフレットや学校紹介動画と併せて生徒達が取り組んでいる各取組みを工業科・図書情報部と連携して広報活動に活かす。	学校案内・PR動画の更新、中学校教員向け説明会、オープンハイスクール、学校見学の随時受入れに対応できた。	34	15	2	0	51	3.63	+ 0.06	3.57	+ 0.03	3.60	
28		教務	(削除)	(削除)	(削除)											
29		生徒指導	立ち番や巡回指導の実施	担任教師以外の職員による校門指導を組織すると共に、生徒への声掛けや挨拶を、職員からも意識して行うようにする。	先生方のご協力により、所期の目標を達成できた。	38	11	2	0	51	3.71	+ 0.04	3.67	- 0.06	3.77	
30		生徒指導	特別指導の情報共有と連携	特別指導事案を職員打合せ等で情報共有するとともに、必要に応じて担当者会議を行い、情報共有と連携指導が行えるようにする。	その都度、関係部署と相談の上、対応し、必要に応じて全体で情報共有することができた。	34	13	4	0	51	3.59	- 0.06	3.65	+ 0.23	3.36	
31		生徒指導	生徒会活動(生徒会行事と部活動等)の実施	生徒会役員や他の生徒たちが活躍できる生徒会行事を、年3回以上行う。	6年ぶりの神工文化祭開催はじめ、生徒総会、球技大会等、様々な活動の場を作ることができた。また、ボランティア活動(自転車マナーアップキャンペーン、福祉施設訪問)にも参加ができた。	38	12	1	0	51	3.73	+ 0.02	3.71	- 0.06	3.79	
32		進路指導	進路講演会・ガイダンスの実施	全体に対する進路講演会および進路ガイダンスを年1回実施する。	進路講演会については12月に実施できた。進路ガイダンスは3月3日実施で計画している。	27	18	5	1	51	3.39	- 0.14	3.53	- 0.21	3.60	
33		保健	身体計測・諸検診の滞りない実施	健康診断を円滑に実施し、受診報告のない生徒については、2学期に再度受診勧告を行い受診を促す。	保健だよりにより受診勧告を行うとともに、個別に受診を促した。	34	14	3	0	51	3.61	- 0.06	3.67	- 0.20	3.81	
34		図書情報	ICTの円滑な活用のサポート	校務用パソコン、NASの管理を日々行い、校務が円滑に行えるようにサポートを行う。	校務用パソコンの更新や、指導者用タブレットの配布を円滑に行うことができた。また、不調なパソコンに対するサポートも円滑に行うことができた。	38	12	1	0	51	3.73	+ 0.02	3.71	+ 0.03	3.70	
35		図書情報	学校Webページの活用	多くの職員にWebページに書き込んでもらえるような体制づくり、生徒にもっと見てもらえるような学校Webページを目指す。	行事報告等を各学年ブログを利用して書き込んでもらうことができた。	29	15	6	1	51	3.41	- 0.02	3.43	- 0.25	3.66	
36		学年	学校行事・LHRの滞りない運営	1年:学校行事や年間LHRを計画的に実施し、円滑に学年を運営する。 2年:学校行事やLHR計画を通じて、楽しい高校生活を送れるように配慮する。 3年:年間行事計画に沿って、修学旅行や進路に向けた活動を滞りなく実施する。 4年:年間行事計画に沿って進路などのLHRを計画的に実施する。	1年:年間計画に沿って、行事やLHRを円滑に実施することができた。 2年:年間行事計画に沿って、滞りなく実施することができた。 3年:年間行事計画に従って、遠足・修学旅行等の各行事に積極的に取り組めた。 4年:年間行事計画に沿って進路などのLHRを計画的に実施することができた。	32	17	2	0	51	3.59	- 0.06	3.65	+ 0.06	3.53	